

いすみの園だより

vol. 80
秋冬号
2020.12.8



信望愛

それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは愛である。コリントの信徒への手紙I13:13

基本理念

神と人々に仕えるキリスト教の愛と奉仕の精神を基本理念とする

①アメニティ(快適主義) ②ヒューマニティ(人間主義) ③ローカリティ(地域主義)



コロナ禍の取り組み

創意工夫で 笑顔の毎日を

連載企画

- 職員さんに聞いてみた
- 私たちの魅力

いつまでもお元気で！
107歳のお誕生日

医師からのアドバイス
Withコロナの
時代の中で

Withコロナの時代の中で

特養での取り組み



特別養護老人ホームいずみの園
介護課 課長
重成 智子



敬老祝会の様子

「特別養護老人ホームいずみの園」では、近隣地域での新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、大人数の行事は中止、ドライブなど外出はひかえ、面会も制限を行うことになりました。そのような中、施設ではインフラを少しずつ整え、5月からオンライン面会を開始し、早速ご家族にご利用いただいています。

「コロナが流行しているけれどご利用者に楽しんでほしい」と8月にはユニット内のホールの壁に白い敷布を貼り、映写機で花火の映像を流し、花火大会の気分を味わってもらいました。「おーっ」と歓声があがり、翌日も「楽しかった」と弾んだ声がかれました。

例年、9月に行っていた「敬老祝会」も今年はできませんでしたが、各ユニットで趣向を凝らして温かい敬老祝いの会を開催しました。

まだまだ新型コロナウイルスの収束は見えない中ですが、感染症対策を行いながら、Withコロナ、だからできることを前向きにとらえ、ご利用者に楽しみが提供できるように取り組んでいきたいと考えています。ご利用者、ご家族に感染症対策をご協力いただいています。心は密に寄り添っていただいております。

人材育成・研修センターでの取り組み



人材育成・研修センター
センター長
岩崎 深雪

「人材育成・研修センター」では、一般の方向けに福祉や介護について学べる福祉講座や食育講座、また介護職員のために「初任者研修」「実務者研修」「喀痰吸引等研修」などの研修も開催しています。その他学生の実習の受け入れも行っており、年間を通して各種研修事業を実施しています。

今年度は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、一般の方向けに開催されている各種講座は延期・中止をしています。6月から再開した「実務者研修」「喀痰吸引等研修」は急遽講義や実技の様子を撮影し、DVDを作成しました。受講生は自宅でDVDを見て学習を行い、それについてのレポートを提出して対応を行いました。現在は、感染症予防対策を実施して研修を再開していますが、ご利用者と直接関わる現場実習は行わず、その代わりに特養やデイサービスで過ごしている様子を撮影して動画を作りました。実習生には「施設」や「自宅」での暮らし、職員の働いている様子やご利用者との関わり方を見ることで、現場実習の代わりとしています。今後も新しい生活様式に沿って受講生が学習しやすい環境作りをしていきたいと考えています。



動画撮影の様子



会場の風景

中津市障がい者等基幹相談支援センターでの取り組み



共生サービス事業部
相談支援課 課長
角 令子

「中津市障がい者等基幹相談支援センター」は、中津市から委託を受けて障がいがある方への相談支援を実施しています。その他の役割として、中津市内の障がいがある方を支援する相談支援事業所の相談支援専門員の人材育成を目的に、年6回の研修会や一般市民向けの研修会、普及啓発のための福祉映画上映会開催、広報誌発行などを行っています。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為に、年度当初は研修会開催を中止していましたが、7月から感染防止対策を実施したうえで研修会を再開し、「メンタルヘルスについて」「精神疾患を持つ方への関わり方について」「コミュニケーション技法について」を実施しました。演習では、フェースシールドを活用し、表情を含めたコミュニケーション技術の向上を目指した研修会を実施しました。2021年1月には福祉映画上映会「架け橋〜きこえなかった3・11〜」を上映予定です。毎年、未曾有の災害が全国で発生していますが、中津市でも我が事として、障がいがある方の災害支援について考える機会になればと思います。今後も感染症の状況を踏まえながら定期的に研修会を開催していき、知識向上と普及啓発に努めてまいります。上映会の詳細については、当センターまでお問い合わせください。

(TEL) 26-1555



コミュニケーション技術演習の様子

活動レポート



認知症多職種協働研修を行っています

●報告者／中津市地域包括支援センターいずみの園
認知症地域支援推進員 新庄 千春

いずみの園が行う事業の一つに「認知症施策総合推進事業」があります。その事業の中で例年、中津市近郊に勤務する医療・介護従事者に向け、認知症に関する様々な研修を行っています。

今年度の研修は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点、そしてそれらの事業を広く市民に周知する目的から、Webを使った研修を実施してみようと試み、Facebookページのご協力のもと、YouTubeチャンネルの創設などを行いました。会場に多くの方に集まっていた大き行ってきた「認知症多職種協働（ラ）イフサポート（研修）」についても、第1部は講義の様子を撮影し、編集を行い、YouTube配信による研修を実施いたしました。第2部はZOOMのシステムを利用し座談会を実施するなど、新しい生活様式に則した研修を取り入れております。



第2部座談会の様子

かきぜdeキッチン(子ども食堂)を行っています

●報告者／デイサービスセンターかきぜ
課長 須崎 敏治

いずみの園かきぜサポートセンター（サマリア館内）では、共生型子ども食堂「かきぜdeキッチン」を運営しています。かきぜdeキッチンは障がいのあるに關係なく、子どもからお年寄りまで誰もがご利用いただける場所です。2019年7月より毎月第3土曜日に開催していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で2020年2月を最後に中止してまいりました。



学習の様子

しかし、参加希望者が楽しみにしているという声もあり、10月より開催曜日を「毎月第3日曜日」へと変更して運営を再開しました。活動内容を「学習」「食事」「活動（レクリエーション）」として子どもだけでなく、地域の方にも楽しんでいただけるような内容にしています。食事は小学生以下100円、中学生以上200円で、献立は「カレーライス」を中心に、月によってサラダやデザートが付きます。「学習」「活動」のみの参加は無料となっています。こだわりの本格カレーに舌鼓を打ちつつ、週末の午後ホッと一息。機会がありましたら是非一度ご利用ください。



なお、ご利用に関しましては完全予約及び登録制となっておりますので、参加ご希望の方は「毎月第2土曜日まで」に連絡をお願いいたします。

TEL26-00039

中津市地域子育て支援センターポールの活動について

●報告者／児童サービスク主任 前田 真美

中津市地域子育て支援センターポールでは、フィジカルディスタンスを保つため、行事の参加はすべて予約制にしています。以前に比べて参加人数が少ないので寂しく感じますが、講師の方と個別に関わることができています。参加した保護者からは「ゆったりしていて良かった」との声が多数ありました。また、「ベビーマッサージ」と「おやこで工作」は開催日を増やし、できるだけ多くの親子が参加できるよう工夫しています。

また、行事がない日に遊びにきてくれた親子が楽しめるよう、10月はハロウィンの壁面や衣装を手作りしました。壁面や写真を目当てにきてきたる親子や、初めて利用する親子が増えました。来園したお子さんには、お土産にいずみの園の他事業所のご利用者がフラワーペーパーで作った力ボチャの飾りをプレゼントしました。

新型コロナウイルス感染予防のため参加者へ手洗いと検温、体調確認カードに記入してからの利用にも快くご協力いただいています。これからも来園した親子が安心して利用できるよう工夫して取り組んでいきます。



おやこヨガの様子



職員さんに聞いてみよう!

理学療法士

さんに聞いてみた!!



特別養護老人ホーム
リハビリ課 課長
高倉 哲也

『安心・安全で働きやすい職場の実現』

第5話

「ノーリフティングケア・福祉機器・器具の活用について」

はじめに、皆様「3K」という言葉はご存知でしょうか?知っている方もいらっしゃると思いますが、知らない方のために解説を。

意味合いとしては「きつい・汚い・危険」の略で、主に肉体労働を指した用語になります。

そして、この3Kに当てはまる業務が各種ある中で、何とナント、介護業界はその代表格として挙げられているのです。ただでさえ介護人材の確保が困難な時代にあって、このイメージ定着がさらなる介護離れを助長してしまうことは、火を見るよりも明らかです。

さて本題へ。5回目となる今回は、そうした「3Kイメージの払拭」も

期待できる腰痛予防対策(「ノーリフト」として、当園が導入した福祉機器・器具の活用事例について、いくつか紹介をさせていただきます。

特養では、職員の健康管理として「腰痛調査アンケート」を年2回実施しており、現場職員にとっての腰痛原因となる業務内容の精査を行っています。

- ① 排泄、② 移乗、③ 入浴

2018年度から3年間の調査の結果、介護業務における腰への負担が圧倒的に高い業務が以上の3種であることが分かりました。

特に排泄業務は、過去3年間を振り返っても不動の第1位。あとの2種が鼻の差で競り合っているという結果です。

さて、ここからは各業務別に機器・器具を活用した事例について紹介させていただきます。

①ピットカバー



皆様、これを覚えていていらっしゃいますか?汚物処理便器カバー(ピットカバー)です。この器具の役割は、排泄業務の負担を軽減することです。これについては第3話で紹介いたしますので、説明は省略させていただきます。

こんな感じで、移乗や入浴業務の負担軽減のために導入した機器・器具について紹介させていただきます。

②スタンディングマシン「スマイル」



写真のように、車椅子・椅子等に座っている方の立ち上がりを補助してくれる機器です。この機器導入の最大のメリットは、スペースの限られたトイレ環境で、人力で抱えるよりほかに手段がなかったこれまでの苦勞を見事に解消してくれたことです。



③ 特殊浴槽 「シャワートロリー」

寝たまま入ることのできる組み立て式の特殊浴槽です。本館・ヨハネ館の入浴担当職員からも悲鳴があがっていた、持ち上げ・抱え上げ負担の改善のために1台ずつ導入しました。



Before



After



本館浴室のビフォーアフター

導入後は、写真のように使用方法を入浴担当職員へ伝達し、職員からの機器に対する改善提案については随時業者に連絡しながら対応している状況です。

浴室完成!



ヨハネ館浴室

ヨハネ館は、入浴担当職員ならびにご利用者のニーズにより、2か所の浴室でトロリー浴が使用できるように、庶務の方に改修工事をお願いしました。そうです!!本館・ヨハネ館どちらのトロリー浴槽も、比較的簡単に移動ができる浴槽なのです。このように、移動が出来るのも魅力の一つです。

まだまだ紹介したいのですが、そろそろページの限界でしょうか。2018年度から現在までにノリフト関連で導入した機器・器具は7種57個となります。導入までには、計画と試行を繰り返しながら、現場にとっての有用性を評価しながら進めてきました。

冒頭でも述べたように、ノリフトの取り組みは「3Kイメージの払拭」にも期待できますので、スタッフにとって安心・安全で働きやすい職場の実現ができるように、施設長先導の下、着実に取り組んでいきます。



シャローム農園で米(ヒノヒカリ)の「稲刈り」を行いました。

「ワークセンターシャローム B型」の事業として、シャロームが借用している田んぼ(8反)で、米づくりをしています。10月12日(月)、職員4名、利用者6名で「稲刈り」を行い、無事に収穫できました。



稲刈りの様子

稲刈りは、①コンバインで刈り取りと脱穀をしながら稲わらを刻みます。②コンバインに貯まった粉を軽トラのコンテナに移して運び、コンベアで乾燥機に入れ込みます。③籾摺(もみすり)機で粉を摺って玄米にするのが工程です。その後、精米した「シャローム米」は、例年職員・地域の方に購入していただいています。(ワークセンターシャローム)

かきぜグループホームで敬老祝会を行いました。



9月21日(月)、中津市蛸瀬の「かきぜグループホーム」で敬老のお祝いを行いました。祝会では、ご利用者にお謡(うた)いが好きな方がおられ、お祝いの歌「鶴亀」を披露していただきました。その後はお食事を召し上がっていただき、料理も大変喜ばれていました。



食事の様子

今年も皆様と敬老の日を迎えることができよかったです。ご利用者の皆様が、これからも自分らしく生き生きと過ごせるよう、職員一同努めてまいります。(かきぜグループホーム)

デイサービスセンターふれんど館で菊花展を開催しました。



「デイサービスセンターふれんど館」では、毎年11月にご利用者の皆様と菊花展観賞に出かけていますが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で外部イベントが軒並み中止になり、外出行事が殆ど出来ませんでした。どうしたらご利用者に外部イベントに参加出来たような気分になっていただけるか考え、今年はふれんど館のテラスで「手作り」菊花展を開催することにしました。ご利用者一人ひとりの機能に合わせて準備を進め、粋取りをしてくれる方、切る方、折る方、ポンドで固定してくれる方等、殆ど全員で関わりました。初めはお花だけの展示でしたが、お抹茶を準備し、菊花展の雰囲気味わっていただきました。皆で完成した菊花展は「本当にきれいよね～、お茶も美味しかった」とご利用者にも大変好評で喜んでいただきました。今後もご利用者が楽しめるイベントを開催していきたいと思えます。(デイサービスセンターふれんど館)



菊花展の様子

「マリアガーデン」でハロウィン行事を開催しました。



10月30日(金)、事業所内保育施設「マリアガーデン」で、ハロウィンにちなみ、仮装パレードを行いました。園児は保護者が準備してくださった衣装を身につけて、今年は施設の外を周りながら窓越しに「ハッピーハロウィン！」と元気いっぱい挨拶しました。ご利用者の皆さんも、仮装をしてお菓子を配っていただきました。年に一度のハロウィンですが、可愛い仮装に目を細めて喜んでくださるご利用者の方と、お菓子をたくさんもらってニコニコ笑顔の子どもたち、とても楽しい交流のひと時となりました。(マリアガーデン)



仮装パレードの様子



いずみの園では、管理職向けの「中間管理職講座」を2013年から毎年定期的に実施しています。今回は主任以上の全管理職向けで、情報セキュリティやサイバー攻撃に関する講座でした。講師は株式会社ライフコンサル大分の福嶋崇氏に務めていただきました。

福嶋氏は中津市外在住のため、昨今の情勢を鑑みて当施設までお越しいただくことはせず、ZOOMを利用して講師の映像を会場に大きく映し行いました。私たちとしても初めての取り組みでしたが、トラブルなく行うことができました。

内容は、近年更に脅威を増すEメール等を用いたサイバー攻撃に関する実例を元に、それによってどのような被害が起きるか、また、どのような対策が必要なのかについて学びました。まずは受講した管理職自身の危機意識を再度高めると共に、それを各部署で共有し、いずみの園全体としてのリスク管理の必要性・重要性を改めて確認する機会となりました。

(経営企画課)

中間管理職講座を開催しました。





Exercise

ここでは、各事業所の
“魅力”や“こだわり”を紹介します。
いずみの園の内側を
少しでも知っていただければ
幸いです。



Brain
game



運動して
コインGET!



私たちの 魅力

Vol.3

いずみの園デイサービスセンターかきぜ

定員：25名 設立：2003年6月



貯まったコインで
マッサージ



ゲームに勝って
コインGET!



「デイサービスセンターかきぜ」は、中津市蛸瀬にある福祉の里センターサマリア館内で事業を行っています。定員25名でサービス提供時間は9：30～16：45となっています。サマリア館内では、児童や親子連れの方、障がい児・者の方への事業もっており、障がいの有無にかかわらず子どもからお年寄りまで多くの方の声が聞こえるにぎやかな環境の中で過ごしていただくことができます。

デイサービスセンターの活動内容については、2020年9月よりサービスの見直しを行い、4種類のコイン（現在コロナの関係から3種類）を使用して楽しみながら活動をする仕組みに変えました。豊富な運動機器とリラクゼーション機器があるので、ご利用者が運動を終えるとコインを配布し、そのコインが貯まるとマッサージを受けることができるなど、遊び感覚で楽しみながら取り組むことができます。また、帰宅前には「ブレインゲーム」という職員が考案した頭を使うゲームも行っています。ゲームに勝つとコインをゲットすることができ、ゲーム感覚で楽しんでいただいています。

体験利用、見学はいつでも可能ですので、ぜひ一度足を運んでいただければと思います。

\\ 私たちがつくりました ^o^ //



編集後記

「80号リニューアル!!」

いずみの園だよりは今号で80号を迎え、少しだけリニューアルいたしました。この80号を作成するにあたり写真を見返していたのですが、いつも関わっている職員さんが撮影するご利用者の皆様が本当に自然で良いお顔をされています。その写真を後から見返すと不思議と心がほっと温まるんです。ご利用者と職員員の信頼関係があるからこそ自然な笑顔がでるのだと写真を見ながら感じました。この広報誌では全ての写真をお見せすることができませんが、少しでもほっと笑顔になれる記事を今後も掲載していきたいと思っています。

(松)

人事関係

① 異動一般職

10月 1日付 曾我 由美 デイサービスかきぜ 介護員
西未奈緒美 デイサービスふれあい館 介護員

② 新規採用職員

9月14日付 大木本侑子 聖愛ホーム 栄養士
10月12日付 近藤由紀子 介護課 介護員
11月 1日付 吉田 寛子 地域包括支援センター 社会福祉士
津田 聖奈 看護課 看護師

(以上2020年11月1日まで)





いつまでもお元気で!



いずみの園のご利用者が107歳の誕生日を迎えられました。

「特別養護老人ホームいずみの園・ヨハネ館」は12月1日現在ショートステイを含め、約127名の方が生活をされています。その中で、100歳を超えられた方が8名おり、今年度は5名の方が100歳を迎えられました。

また、10月26日(月)は入居者の中で最高齢の四熊(しぐま)フサ様が107歳の誕生日を迎えられ、お祝いを行いました。ユニットでのお誕生日会でしたが、職員の手作りケーキやお寿司を準備し、普段一緒に過ごされているご利用者の皆様と職員でお祝いしました。四熊様も沢山食事を召し上がり、皆様からのお祝いの声に笑顔で手を振り返しておられました。

「特別養護老人ホームいずみの園・ヨハネ館」は、これからもご利用者の皆様に安全で快適な生活を送っていただけるよう職員一同努めてまいります。



四熊様お誕生日会の様子

Withコロナの時代の中で

特別養護老人ホームいずみの園
嘱託医 橋本 眞子



嘱託医をお引き受けし、すでに30年程になります。感染症対策は、入居施設には最重要課題の一つです。平素から手洗いを励行、流行期にはマスク、面会制限を行う対策などで乗り切ってきました。しかし、新型コロナウイルス感染症はかなり手強い相手です。

感染症対策は、感染源を断つ、感染経路を断つ、体に抵抗力をつける、の3つです。

行動の制限と自粛で、生活は大きく変化しました。自分が感染源にならぬよう感染防御に努めることで神経質になり、多くの方がストレスを貯め込んでいることでしょう。この自粛生活、面会制限、サービス利用の減少などにより、ご利用者様の心身の機能低下が心配されています。当施設でも面会制限が実施され、ご家族との時間共有ができず、例年の行事、外出は中

止という状況です。それでも、ご利用者様はいつもと変わらぬ日常生活を送っていらっしゃいます。各ユニットでは季節毎に趣向を凝らした工夫がされ、コロナ前と同様のサービスが提供され、このことが施設ご利用者様の生活、心身の機能維持に繋がっていると考えています。

いつもと変わらぬサービスが提供できているということは、職場の皆様が、コロナ禍で自粛が続く不安と不自由な中にありながら、施設職員であるという責任感から、自分が感染しないことが他者への感染予防の最良の防衛であると考え、日々自己防衛の徹底に努めている贈物であると思います。その努力に敬意を払い、心からエールの拍手を送ります。



特養介護課の画伯
画伯を
ご紹介★
特養介護課の画伯を紹介



今年は車内から...
コスモス観賞ドライブ
寄り合いセンターいずみ
寄り合いセンターコスモス観賞の様子



虹だー!
雨上がりの空に虹発見



かきせグループホームクッキング

#いずみの園photo

いずみの園で「Facebook」「Instagram」に掲載した写真を紹介していきます。



マリッジガーデン事業所訪問



サマリア館のハロウィン飾り



地域活動支援センター芋掘り体験



お誕生日会をしました。



FacebookやInstagramの「いいね」「フォロー」お待ちしております! スマートフォンの方は上記のQRコードから読み込ませてください!